

過去から未来への出発

天皇訪中 決定

「お言葉」は…警護は…

準備あと 2か月余 関係省庁フル回転

宮沢首相のプーサインが出て、十日ようやく決まった天皇、皇后両陛下の中国、訪問。出発までわずか二か月というギリギリの時期にもつれ込んだため、外務省、宮内庁などは、これからフル回転の準備作業に入る。今後、戦争の過去に対する「お言葉」問題が論議を呼びそうだが、日中の懸け橋として活動してきた人たちは、天皇初訪中が両国友好の新時代を開くものと大きな期待を寄せている。

訪中のスケジュール調整にあたる外務省の窓口は、アジア局中国課。反対派への配慮から、準備作業は表向き中断しているが、その間も中国課長、アジア局長

が宮内庁を訪れて長官と協議するなど、下準備は万全。今月中には担当者を中国に派遣して日程や具体的な訪問場所の調整を開始し、宮内庁、警察庁の担当者も二次にわたって事前調査に出かけることになる。

随員の選定も緊急課題の一つ。昨春秋の東南アジア訪問の際は倉成正・元外相が首席随員を務めたが、今回は元首相クラスの大物の名前も上がっている。

一方、宮内庁は今月上旬、訪中をテーマとした初会合を開いており、今後、この



中国の研究機関と交流を続けている猪木正道・平和安全保障研究所会長「日中両国が友好関係を不動のものにするには、双方の努力が必要。中国もいろいろ努力しているし、繰り返しの

政治的謝罪好ましくない

招請を断ったとしたら、そうした努力を真切にすることになる、と心配していた。お言葉については、天皇が政治的な意味での謝罪をされるのは好ましくないと思う。『不幸な過去』というこれまでの表現にとどめた方がよい。陛下が中国の地を踏まれるという事実だけで、お気持ちは伝わるはずだ」



中国からの帰国者の援助活動を行っている「中国帰国者三互会」の和泉清一会長「帰国した残留孤児も陛下に対し悪感情はもっておらず訪中に賛成している。中国とは長い交流の歴史が

侵略…謝罪は当然のこと

あり、一衣帯水の関係。友好がアジアや世界の平和につながる。昭和天皇から世代も替わっており、平和の象徴としての陛下の訪問は、くるくる替わる首相の訪問より、中国国民に深く友好を印象付けるのではないかと。私の戦争体験から言え、日中戦争は侵略に間違いなく、謝罪されるのは当然のマナーだと思う」



映画「君よ憤怒の河を渉れ」が中国でヒットして以来民間レベルの交流が続いている女優の中野良子さん「中国は今、試行錯誤しながらも国造りにまい進しているところ。手を差し伸べ

交歓テニスなされては

「そこそこの真の友情です。陛下には理想に向かって頑張っている国民の姿を驚かすっていただきたい。陛下が自然にお言葉を述べ、振る舞われれば、日本人を理解し、愛する中国人も増えるでしょう。中国の要人にはテニスファンが多い。プレーされる機会があれば、何よりの友好のシンボルになると思います」



現代中国の諸問題などが専門の中島嶺雄・東京外語大教授「最近の尖閣列島、南沙諸島問題、天安門事件以来の西側諸国の対中姿勢を見れば、環境は十分に成熟しているとは言えない。

友好に徹し史跡ご参観を

しかし、ここでもコミットメント(言葉)を与えた訪中要請をキャンセルするわけにいかなかったのも事実で、決まった以上は実りあるものにして欲しい。両陛下は友好親善に徹されるべきで、万里の長城、西安の遺跡など名所を参観していただきたい。お言葉には政治が加味されないよう慎重であって欲しい」



中国・清朝のラストエンペラー溥儀(愛新覚羅溥儀)の末弟、愛新覚羅溥傑(あいにしんかくら・ふけつ)中国全国人民代表大会大会常務委員「天皇陛下のご訪問は友好親善のために非常に結構なこと。

ご訪中機に親善なお努力

陛下には、日本に行くたびににお目にかかり尊敬している。中日関係は二十年前に比べれば、だいぶ進展があった。両国間には小さな問題はありますが克服できると思う。大きな目標を見失わないようにやっていけばいいのではないかと。中日親善は我々の義務だし、それに向けて努力していきたい」



読売国際漫画大賞を受賞したこともある中国の漫画家・黎青さん「天皇陛下の訪中は中日両国関係を必ず前進、発展させることになると思う。国交回復二十周年を機に、両国の交流が経

おおいにさわやか笑顔

「おおいにさわやか笑顔をお見せください」(北京支局)

入棟方志功
1-11 画廊03(6666)5641